



留学体験記

オーストリア ザルツブルク大学

坂本 竜 (96回生)



留学生用オリエンテーションの様子

①留学のきっかけ

私は早稲田大学の国際教養学部部に所属しています。国際教養学部では卒業のために1年間の留学が義務付けられていて、留学先の単位が卒業単位に変換される交換留学制度が一般的です。そのため、1年の留学を行っても卒業が遅れることはありません。私もその制度のもとオーストリアのザルツブルク大学に留学しました。ヨーロッパの中央に位置しており様々な場所に行きやすそうであり、治安が良く、日常生活で英語が通じるという理由から、いくつかの選択肢の中で東欧という未知の世界を留学先を選びました。

留学に不安はほとんどなく、初めて海外で生活することにワクワクしていました。

②学習・学校のこと

大学では英語で開講されている科目を選択しました。理系の科目から文系の科目まで興味のあるものについて幅広く授業選択ができたことが自身の学びをより広げられたと感じています。授業では、留学生だけでなく学部の新規生と関わることもありました。ヨーロッパを中心とした様々な国から来た生徒が学んでおり、生徒の年齢層も幅広く、日本にはないグローバルさを感じることが出来ました。

学習面において、私は2つのことを主に学びました。多文化共生社会とジェンダー・フェミニズム論についてです。1つ目の多文化共生社会については、移民学に関する授業を取り、人種差別問題や移民であるということが就職にどのように影響

するのかなどについて勉強しました。オーストリアに暮らす移民二世や三世の生徒と行ったディスカッションは新しい発見や学びも多くとても刺激的でした。

2つ目のジェンダー・フェミニズムについては日本で少し学んだこともあり、それぞれの国での教え方の違いや論点の違いについても知ることが出来ました。日本では主に「GENDER」の人々について学習したのですが、留学先では女性のキャリアや権利について学ぶことが多かったのが印象的でした。

Gender in Salzburg という授業ではザルツブルクという都市の歴史と絡めながらジェンダーについて学習でき、ほかの国からの留学生と交流することも多く、友達を作って様々な話をする事が出来ました。私たちのグループは教育面におけるジェンダー格差についてのプレゼンを行うなどしました。

早稲田大学での授業で英語開講科目には慣れていたものの、最初は自身の意見をディスカッションで堂々と言うことや様々な国のアクセントの違いになるのは難しく、発言の前に考えてしまったりと辛い思いもしました。また、卒業のために単位を取らないといけないため、テスト前には一日中図書館にこもってレポートを書いたり勉強をしたり忙しい日々を過ごしました。



韓国からの留学生友人と(右)



学校へ 登校時の景色

海外留学奨学金基金を利用しませんか

関東在住の土佐高卒業生の若者に、是非海外の文化や最新の技術等を体験して欲しいと、38回生の有志が海外留学奨学金【38池田勲夫基金】を創設され、返済不要の給付型奨学金として、坂本さんを始めとする留学生を応援しています。

夢や目標のある方、冠する土佐の名に叶おうとするものは是非応募してみませんか。申請の受付については、関東支部HPでお知らせいたします。

関東支部HP <https://www.tosako-kanto.org/index.html>

③学校や町の魅力

ザルツブルクという都市は人口15万人ほどの小さな州ですが、サウンドオブミュージックのロケ地として有名で毎日たくさん観光客が訪れていました。寮から大学に行く際に旧市街を通り、毎日見るその景色がとてもきれいで毎回感動していました。また学校のキャンパスも旧市街の中に点在していて、歴史の重みを感じられるキャンパスで過ごすことができました。島国の日本と異なり、オーストリアでは様々な国の民族が混ざり合っていて、ヨーロッパ系の人たちだけでなく、アジア系やアフリカ系、中東系など様々な人種の人たちが共に暮らしていました。自身の想像していたヨーロッパの街と人々とは全く違う光景にも驚きました。また、ホームレスの方が想像以上に多く衝撃を受けることもあり、実際に暮らしてみないと見えてこないこともたくさん経験できました。

④日常生活・文化の違い・観光

私は滞在中、寮生活をしていました。学校専属の寮ではなかったため、他大学の音楽学校に通う生徒や働いている人もいて様々な人と関わることで出来たことが魅力的でした。留学に来てから人生で初めて自炊生活を送ったため、最初の頃は自由時間のほとんどを食料の買い出しと料理に費やしていました。キッチンも共同で、他国の人と話したり、韓国人の子たちが韓国料理を振舞ってくれたりと何回かパーティーもあり、楽しい文化交流ができました。

学期の間の長期休みには様々な国に訪れて観光を楽しみました。大学でできた

友達とイタリア周遊をしたり、早稲田の友達とパリで再会したり、初めての一人旅に挑戦したりもしました。様々な場所へ行けば行くほど自身の世界が広がっていくようで本当に貴重な経験ができたと思います。

⑤結びとこれから

留学中は楽しいことと同じくらい辛いこともありましたが、100%行つてよかったと思います。留学を通じて自身の視野が本当に広がったからです。

日本では海を越えた戦争や地震などが他人事のように感じられますが、海外にいくとそれらの影響が自身に及ぶ危険性を常と感じました。安全面や清潔面において日本ほど良い国はないと思います。また日本の漫画やアニメ文化が大好きで日本語を学んでいる人にたくさん出会った一方で、アジア人差別的な行動をとる大人や子供と街ですれ違うこともあるという、日本にいたら絶対にしないであろう経験もし、自分なりに考えることがたくさんありました。

また、留学を通じて世界史や宗教についてをもっと学びたいと思い、更に自身のキャリアについても深く考えるようになりました。

最後に、留学を通じて思ったことは、自分が想像していた以上に自分の将来は可能性があるということです。たくさんの人と出会い、様々な人生を知り、選択肢が増えました。最近就職活動が始まり、どうしても大きな企業に就職することに目が行きがちですが、留学で得た経験を忘れずに自分自身の人生についてもう一度考えてみたいと思います。